

授業科目名	キャリア・デザイン3	教員名	矢野 健二 桑原 重雄
		Eメールアドレス	kyano@sky.miyazaki-mic.ac.jp skuwabara@miyazaki-mic.ac.jp
授業形態	講義	オフィスアワー	授業終了後随時
科目番号	CED3	担当形態	オムニバス (実務経験のある教員)
単位数	2 単 位	配当年次	3 年
		卒業要件	必 修
一般目標	<p>(1)自己のキャリア形成を主体的に考え、その方向性を決定し、設計図を描き、社会が求める人材となるための社会人基礎力を高める方法を学ぶ。</p> <p>(2)具体的な職業選択に向けて社会と自分をつなげるため、実践活動を重視し、自己の適性を理解した上で、希望する職種・業界・企業の情報収集や分析を基に就職活動を展開するため、具体的な行動計画を立案する。[社会理解・職業理解]</p>		
到達目標	<p>(1)就職活動全体の流れを理解する。</p> <p>(2)自己分析と企業分析を基にして自身の自己アピール力を高める。</p> <p>(3)就職活動に主体的に取り組む意識を高める。</p> <p>(4)就労環境の変化や多様な働き方について理解する。</p> <p>(5)自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける。</p> <p>(6)企業等が求める人材を判断する就職試験を意識して、必要な能力を高める。</p> <p>(7)自身のキャリアをデザインすることが可能になる。</p> <p>(8)希望する進路を絞り込んで、具体的な行動計画を立て、具体的な努力をする。</p>		
授業の概要	<p>キャリアデザインとは、自己を分析して自分の進みたい未来を思い描き、その計画を立てることである。このことは、様々な価値観が存在する現代社会において、職業を通じて自己の能力や個性を最大限に発揮し、結果として社会貢献につながるような豊かな職業生活をどう築くかを考えることでもある。</p> <p>本講義では、自分自身のあり方、生き方、働き方とSDGsの関連を考え、様々な課題を自らの課題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手になれるよう意識と行動の変革を求める。</p> <p>目標4：全ての人々に包括的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。</p> <p>目標8：包括的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。</p> <p>目標12：持続可能な消費と生産のパターンを確保する。</p>		
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>(1)クリティカル・シンキング（批判的・分析的思考法）をベースにした高度な思考（比較、分析、総合、評価）能力を身につけている。</p> <p>(2)グローバル・リベラル・アーツ、国際ビジネス・マネジメント、ホスピタリティー・観光マネジメント、英語教育の各コースの教育を通じて基礎及び応用知識を身につけ、活用する能力を身につけている。</p> <p>(3)課題発見及び問題解決能力を身につけている。</p> <p>(4)日英両語における高度なコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>(5)情報技術活用能力を身につけている。</p>		
履修条件・注意事項	<p>(1)講義時間には遅刻せず、講義には常に出席しなければならない。</p> <p>(2)講義の出席回数が3分の2を満たさない者は辞退とする。</p> <p>(3)聞くだけでなく発表など積極的な参加・発言を求める。</p> <p>(4)講義内容を深く理解し、スキル習得につなげるためには、講義内容についての復習を必ず行うこと。</p>		

授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：就活スタートアップ講座 第3回：自己分析・自己PR① 第4回：自己分析・自己PR② 第5回：インターンシップの実際 第6回：コミュニケーションと自己表現力① 第7回：コミュニケーションと自己表現力② 第8回：労働関係法Ⅲ 第9回：時事問題研究Ⅲ 第10回：男女共同参画関係Ⅲ 第11回：就職試験の実際（SPI Webテスト） 第12回：就職試験の実際（SPI ペーパーテスト） 第13回：幸運を手に入れる習慣とスキル 第14回：職業の世界を知る(ハローワーク) 第15回：就職活動の実際（就職活動の流れ）
学生に対する評価	(1)平常点：リアクションペーパー（小レポート）：75点 (2)課題レポート：25点
時間外の学習について	学生は、全ての講義時間に対して、最低1時間の準備をし、最低1時間の復習及び課題をすることを望みます。 事前学習：シラバスの進行に合わせて、予備知識の部分を事前に調べておく。 事後学習：毎回の講義や講演等の課題を整理し、自身のキャリアデザインや就職活動に活用できるようにまとめる。
テキスト	教科書は使用せず、毎時間必要な教材資料を配付する。
参考書・参考資料等	適時適切な資料等を紹介する。